

2017年度 第3四半期決算

投資家様向け説明会



2018年1月30日
オムロン株式会社

発表のポイント

■ 3Q累計実績

- ・ 大幅増収増益を達成。売上高、売上総利益、営業利益は過去最高。
- ・ 制御機器事業が好調で全社の成長を牽引。
- ・ 将来の成長に向けた投資を着実に実行。

■ 通期見通し

- ・ 4Qも引き続き好調継続。
- ・ 投資を加速する中でも、制御機器事業が牽引し、全社としては前回の通期見通しを達成見込み。
- ・ 特に制御機器事業は好調で当該事業の上方修正を実施。
(一方、本社直轄事業を下方修正)

■ ヘルスケア事業(HCB)の事業戦略

- ・ ヘルスケア事業は制御機器事業に次ぐ柱であり、全社を牽引する事業。

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

1

(取締役 執行役員専務 CFO 兼 グローバル戦略本部長 日戸 興史による プレゼンテーション)

発表のポイントです。

本日の発表のポイントは3点あります。

1点目は3Q累計実績です。

上期に続き、大幅増収増益を達成しました。

売上高、売上総利益、営業利益は過去最高です。

特に制御機器事業が好調に推移し、全社の成長を力強く牽引しました。

i-Automation!というコンセプトのもと、制御機器事業の成長が加速しています。

また、将来の成長に向けた投資を着実に実行しています。

2点目は通期見通しです。

4Qも引き続き好調継続を見込んでいます。

投資を加速する中でも、制御機器事業が牽引し、

全社としては前回の通期見通しを達成する見込みです。

そのため、全社として2Q決算に上方修正した見通しを据え置きました。

事業セグメント別では、特に制御機器事業は好調で当該事業の上方修正を実施しました。

3点目はヘルスケア事業の事業戦略です。

ヘルスケア事業は制御機器事業に次ぐ柱であり、全社を牽引する事業です。

戦略の詳細については荻野から後ほどご説明致します。

目次

1. 3Q累計実績 P. 3

2. 通期見通し P. 9

3. ヘルスケア事業(HCB)の事業戦略 P. 16

本日のアジェンダはご覧の通りです。

まずは3Q累計実績です。
4ページをご覧ください。



3Q累計実績

3Q累計実績

**大幅増収増益を達成。売上高、売上総利益、営業利益は過去最高。
売上総利益率は41.7%。稼ぐ力を向上。**

(億円)

	2016年度 3Q累計実績	2017年度 3Q累計実績	前年同期比・差
売上高	5,687	6,249	+9.9%
売上総利益 (売上総利益率)	2,240 (39.4%)	2,608 (41.7%)	+16.4% (+2.3P)
営業利益 (営業利益率)	458 (8.1%)	644 (10.3%)	+40.5% (+2.2P)
当社株主に帰属する 四半期純利益	306	467	+52.4%
USDレート (円)	106.9	111.7	+4.8
EURレート (円)	118.7	127.9	+9.2

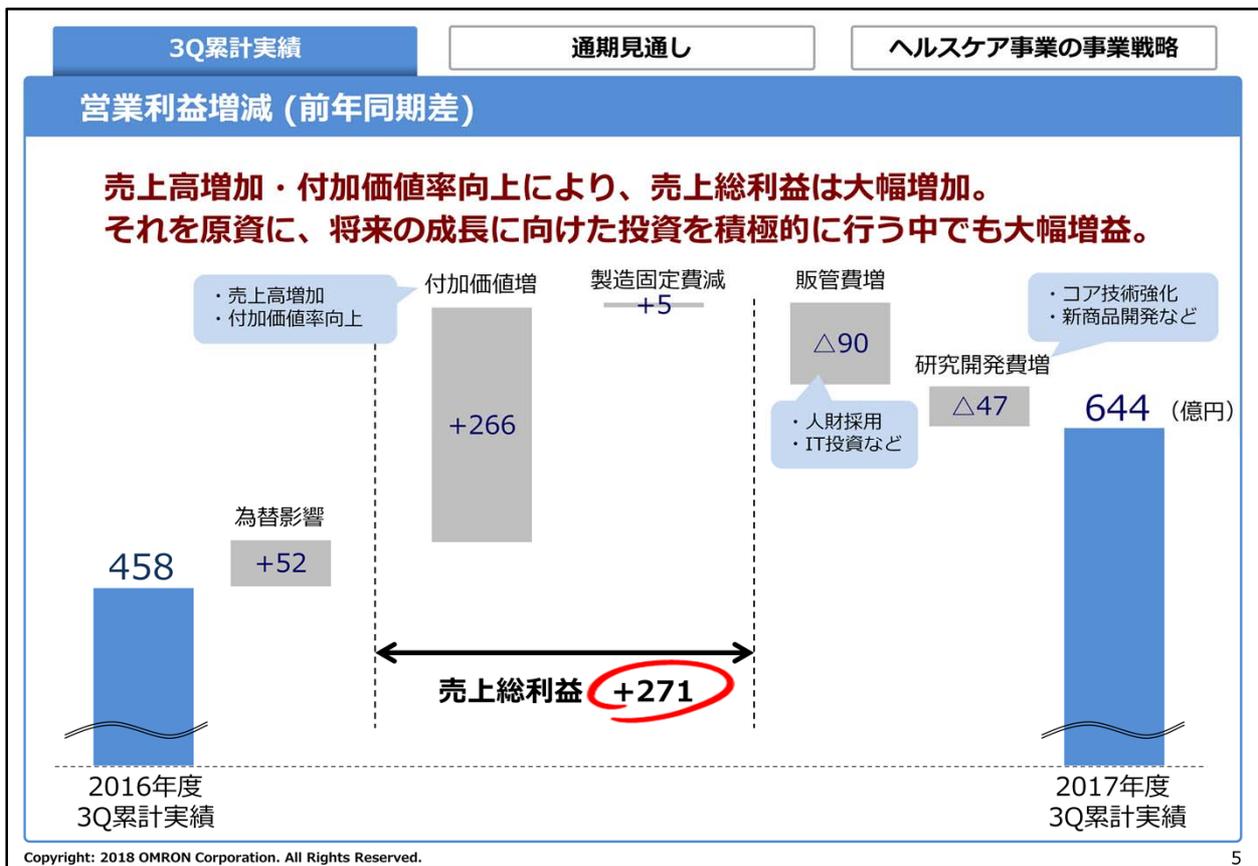
Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

4

ご覧の通り、大幅増収増益となりました。

売上高、売上総利益、営業利益は額、率ともに3Q累計として過去最高です。

また、我々が特に拘っている売上総利益率を41.7%にまで
引き上げることができ、稼ぐ力の向上に手応えを感じております。



このチャートは、営業利益における2016年度3Q累計実績と、2017年度3Q累計実績の増減を表しています。

ご覧の通り、売上高の増加、付加価値率の向上により、付加価値額を拡大させ、売上総利益は271億円の大幅増加となりました。それを原資に、人財採用やコア技術の強化など、将来の成長に向けた投資を積極的に行う中でも、大幅増益を達成しました。

稼ぐ力が向上し、積極的な投資が行える好循環に入っており、オムロンが持続的に成長する力が増していると感じています。

事業セグメント別 売上高

**制御機器事業が20%を超える増収を達成。
電子部品事業、ヘルスケア事業*も10%を超える成長を実現。**

(億円)

	2016年度 3Q累計実績	2017年度 3Q累計実績	前年同期比
制御機器事業 (IAB)	2,400	2,921	+21.7%
電子部品事業 (EMC)	689	777	+12.8%
車載事業 (AEC)	969	976	+0.7%
社会システム事業 (SSB)	309	310	+0.2%
ヘルスケア事業 (HCB)	760	820	+8.0% *(+13%)
本社直轄事業 (その他事業)	523	416	△20.3%
本社他(消去調整含む)	38	29	△23.7%
合計	5,687	6,249	+9.9%

* 旧オムロン
コーリン社除く

※経営管理区分の見直しのため、社会システム事業(SSB)傘下の一部を本社直轄事業(その他事業)の事業セグメントに含めて開示しています

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

6

事業セグメント別の売上高をご覧ください。

制御機器事業が全社の成長を力強く牽引しました。
上期に続き、20%を超える増収を達成しています。

電子部品事業は家電向けの好調な需要をしっかりと取り込み、
10%を超える成長を実現しています。

ヘルスケア事業では新興国で事業を拡大し、
2016年12月に売却した旧オムロンコーリン社の影響を除くと、
10%を超える成長を実現しています。

事業セグメント別 営業利益

特に制御機器事業が大幅増益。
電子部品事業、ヘルスケア事業も大幅増益。

(億円、%：営業利益率)

	2016年度 3Q累計実績	2017年度 3Q累計実績	前年同期差
制御機器事業 (I A B)	371 (15.4%)	552 (18.9%)	+182 (+3.5P)
電子部品事業 (EMC)	71 (10.4%)	108 (13.9%)	+37 (+3.6P)
車載事業 (A E C)	49 (5.0%)	43 (4.4%)	△6 (△0.7P)
社会システム事業 (S S B)	△ 35 (-)	△ 33 (-)	+2 (-)
ヘルスケア事業 (H C B)	76 (10.0%)	102 (12.4%)	+26 (+2.4P)
本社直轄事業 (その他事業)	△ 13 (-)	△ 11 (-)	+2 (-)
本社他 (消去調整含む)	△ 60	△ 117	△ 56
合計	458 (8.1%)	644 (10.3%)	+186 (+2.2P)

※経営管理区分の見直しのため、社会システム事業(SSB)傘下の一部を本社直轄事業(その他事業)の事業セグメントに含めて開示しています

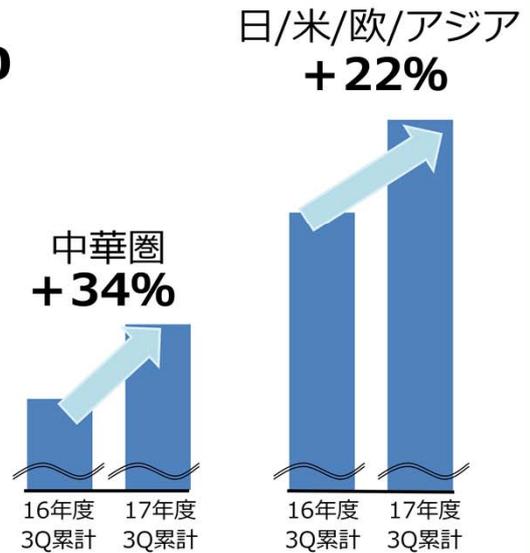
次は、事業セグメント別の営業利益です。

特に制御機器事業が182億円の大幅増益を達成しました。
これは前年同期比で約1.5倍の水準です。
制御機器事業の収益力が高まっております。

電子部品事業、ヘルスケア事業も大幅増益を達成し、
全社の増益に貢献しています。

制御機器事業 注力業界での高成長

**3Q累計 グローバル
注力4業界売上高 +25%**
(前年同期比、現通ベース)



Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

8

好調な制御機器事業について、もう少し詳しくご説明させていただきます。

以前から皆さまにお伝えしている注力4業界における成果です。

自動車、デジタル、食品・日用品、社会インフラの4つの注力業界において、グローバルで前年同期比+25%の成長を実現しました。

特に、中華圏は前年同期比+34%と高成長を継続しています。

また、中国だけではなく、日本、米州、欧州、アジアの合計でも+22%と大きく伸ばしました。

我々の戦略の確からしさに手応えを感じております。

次は通期の見通しです。

10ページをご覧ください。



通期見通し

4Q グローバル/エリア別 事業環境認識

グローバル経済は緩やかな回復基調が継続。

<国内>

半導体・自動車業界における設備投資拡大が牽引し、引き続き堅調。

<海外>

米州 : 米国自動車業界の調整局面に変化はないが、全般的な景気回復は継続。

欧州 : 設備投資や生産の拡大が続き、緩やかな回復が継続。

中国 : 政府主導の投資抑制政策により、成長率の鈍化は継続。

アジア : 韓国は好調継続、タイ・インドの景気回復は継続。

まずは4Qにおける事業環境認識です。

総じて3か月前に想定していた事業環境と大きな変化はありません。
グローバル経済は緩やかな回復基調が継続すると見ています。

4Q 事業セグメント別 事業環境認識

制御機器事業 (I A B)	国内：自動車、半導体が引き続き堅調。 海外：中国・アジアは上期比では一服感があるものの、総じて好調。 欧州は堅調継続。米州は自動車、半導体が堅調。
電子部品事業 (E M C)	民生：半導体・産業機器需要は引き続き好調。中国は家電需要が好調。 車載：欧州は堅調継続、アジアは二輪向け需要が堅調。
車載事業 (A E C)	国内：市場環境の回復により堅調継続。 海外：中国は概ね横ばい。米国は底堅く横ばい。
社会システム事業 (S S B)	駅務：更新需要一巡により引き続き軟調。 交通：更新需要は堅調継続。
ヘルスケア事業 (H C B)	国内：オンライン市場を中心に堅調継続。 海外：中国、アジアなど新興国での健康志向の高まりにより堅調継続。
本社直轄事業 (その他事業)	環境：再生エネルギー市場は低調継続。 バックライト：ハイエンドバックライト市場は横ばい。

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

11

次は、事業セグメント別の事業環境認識です。

制御機器事業においては、国内で自動車、半導体が引き続き堅調に推移すると想定しています。

海外では中国、アジアは上期比で一服感があるものの総じて好調、欧州は堅調継続、米州は自動車、半導体の堅調を見込んでいます。

他の事業セグメントについては、ご覧の通りです。

通期見通し

投資を加速する中でも、制御機器事業が牽引し、全社としては前回の通期見通しを達成見込み。よって、見通しは据え置く。VG2.0の達成に向けて業績は順調に進捗。

	2016年度 実績	2017年度 見通し(前回・今回)	(億円) 前年度比・差
売上高	7,942	8,500	+7.0%
売上総利益 (売上総利益率)	3,118 (39.3%)	3,535 (41.6%)	+13.4% (+2.3P)
営業利益 (営業利益率)	676 (8.5%)	850 (10.0%)	+25.8% (+1.5P)
当社株主に帰属する 当期純利益	460	590	+28.3%
USDレート (円)	108.9	111.3	+2.4
EURレート (円)	119.4	127.9	+8.5

※ 4Qにおける為替レートの前提は、USD110円、EUR128円

通期の見通しです。

投資を加速する中でも、制御機器事業が牽引し、
全社としては前回の通期見通しを達成する見込みです。
よって、見通しは据え置きます。

VG2.0で目指す売上高1兆円、営業利益1,000億円の達成に向けて、
業績は順調に進捗しています。

事業セグメント別 売上高

**制御機器事業の上方修正を実施。一方、本社直轄事業は下方修正。
制御機器事業に加え、ヘルスケア事業も着実に成長し、全社を牽引。**

(億円)

	2017年度 前回見通し	2017年度 見通し	前回見通し差	2016年度 実績	前年度比
制御機器事業 (IAB)	3,880	3,930	+50	3,310	+18.7%
電子部品事業 (EMC)	995	995	±0	939	+5.9%
車載事業 (AEC)	1,295	1,295	±0	1,321	△1.9%
社会システム事業 (SSB)	635	635	±0	619	+2.6%
ヘルスケア事業 (HCB)	1,085	1,085	±0	1,013	+7.1% *(+11%)
本社直轄事業 (その他事業)	570	520	△50	685	△24.1%
本社他(消去調整含む)	40	40	±0	55	△28.0%
合計	8,500	8,500	±0	7,942	+7.0%

※社会システム事業(SSB)傘下の一部を本社直轄事業(その他事業)の事業セグメントに含めて開示しています

*旧オムロンコーリン社除く

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

13

事業セグメント別については、若干変化が生じており、売上高、営業利益ともに見通しを変更しています。

まずは売上高です。

制御機器事業は好調が継続する見込みであり、上方修正しました。制御機器事業の成長が加速しています。

一方、本社直轄事業はバックライト事業の最適化を加速し、下方修正を実施しました。

前年度比で見るとご覧の通り、制御機器事業に加え、ヘルスケア事業が全社の成長を牽引していく見通しです。

事業セグメント別 営業利益

制御機器事業は上方修正する一方、車載事業・本社直轄事業は下方修正。
 制御機器事業を中心に、電子部品事業・ヘルスケア事業も全社の増益に貢献する見込み。

(億円、%：営業利益率)

	2017年度 前回見通し	2017年度 見通し	前回見通し差	2016年度 実績	前年度差
制御機器事業 (I A B)	715 (18.4%)	730 (18.6%)	+15 (+0.1P)	520 (15.7%)	+210 (+2.9P)
電子部品事業 (E M C)	120 (12.1%)	120 (12.1%)	±0 (±0P)	94 (10.0%)	+26 (+2.0P)
車載事業 (A E C)	65 (5.0%)	60 (4.6%)	△5 (△0.4P)	71 (5.4%)	△11 (△0.8P)
社会システム事業 (S S B)	40 (6.3%)	40 (6.3%)	±0 (±0P)	37 (6.0%)	+3 (+0.3P)
ヘルスケア事業 (H C B)	105 (9.7%)	105 (9.7%)	±0 (±0P)	85 (8.4%)	+20 (+1.3P)
本社直轄事業 (その他事業)	△15 (-)	△25 (-)	△10 (-)	△18 (-)	△6 (-)
本社他(消去調整含む)	△180	△180	±0	△113	△66
合計	850 (10.0%)	850 (10.0%)	±0 (±0P)	676 (8.5%)	+174 (+1.5P)

※社会システム事業(SSB)傘下の一部を本社直轄事業(その他事業)の事業セグメントに含めて開示しています

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

14

次は事業セグメント別の営業利益の見通しです。

制御機器事業は営業利益についても、上方修正を実施しました。

車載事業は研究開発体制の強化のため、
 研究開発費を拡大しており、下方修正を実施しています。
 また、本社直轄事業も売上高と同様に下方修正しました。

前年度と比較すると、制御機器事業が210億円の増益で、
 前年度から営業利益を40%拡大させる見通しです。
 制御機器事業を中心に、電子部品事業、ヘルスケア事業も
 全社の増益に貢献する見込みです。

3Q累計実績	通期見通し	ヘルスケア事業の事業戦略
お伝えしたいポイント		
制御機器事業は成長業界への注力と i-Automation!が奏功し、業績が好調		
ヘルスケア事業は制御機器事業とともに 全社の成長を牽引		
稼ぐ力の向上で獲得した原資を積極的に投資する サイクルを構築し、将来の成長構造作りの加速と 同時に収益性を向上		
Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.		
		15

ここで皆さまにお伝えしたいポイントを3点にまとめました。

1点目は、制御機器事業は成長業界への注力とi-Automation!が奏功し、業績が好調に推移していることです。

先ほどご説明した通り、注力4業界ではグローバルで確かな成長を実現しています。また、i-Automation!というコンセプトのもと、世界唯一の幅広いラインナップを組み合わせたソリューション提案を進め、お客様のモノづくり現場に革新を起こしています。

その取り組みをさらに加速させるため、世界初のAI搭載コントローラーの開発や、10万機種の制御機器のIoT対応を進めています。

2点目は、ヘルスケア事業は制御機器事業とともに全社の成長を牽引していることです。

3点目は、稼ぐ力の向上で獲得した原資を積極的に投資するサイクルを構築し、将来の成長構造作りを加速すると同時に収益性を向上させていることです。

今後ともCFOとしてROIC経営の規律のもと、投資と収益のバランスを取って、適切な投資判断をしていきます。

それではここからヘルスケア事業のトップの荻野から、事業戦略についてご説明させていただきます。



ヘルスケア事業(HCB)の 事業戦略

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

16

(オムロンヘルスケア株式会社 代表取締役社長 荻野 勲による プレゼンテーション)

ヘルスケア事業の荻野です。

私からヘルスケア事業についてご説明させていただきます。

昭和36年に創業者が病気は、測定、診断、治療するので、治療を制御と置き換えればオートメーション理論が使えるのではないかと考え、それを健康工学と名付けました。

この健康工学に基づいた健康産業を興していくという考えのもとヘルスケアのビジネスがスタートしました。

ヘルスケア事業(HCB)の位置づけ

注力4ドメインの中でも、FAとともに特に注力するドメイン。

FA



ヘルスケア



モビリティ



エネルギー・マネジメント



Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

17

それから56年が経ちました。

少しずつ事業を拡大しながら、
今ではオムロンが注力する4つのドメインの1つと位置付けられています。

ヘルスケア事業(HCB)のミッション

**地球上の一人ひとりの健康で
すこやかな生活への貢献**

All for Healthcare

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

18

ヘルスケア事業にはグローバルで約4,400名の社員が在籍しています。

全員が「地球上の一人ひとりの健康ですこやかな生活への貢献」というミッションに向け、日々の業務に取り組んでいます。

ヘルスケア領域の社会的課題

先進国および新興国での社会変化に伴う新たな課題の出現により、
医療費増大が深刻化する。

社会変化



先進国に加え、
新興国でも中間層が増加



先進国での高齢化の進展

新たな課題



生活習慣病患者の増加



寿命と健康寿命のギャップが拡大

社会的課題



医療費の増大

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

19

少し前までは、「健康で長生き」という思いは個人の願いやニーズでした。
ところが最近では個人の願いではなく、社会全体の願いになってきています。

新興国では収入の増加や中間層の増加に伴い、
高血圧や糖尿病、高脂血症といった生活習慣病の患者が増えています。
また先進国では、健康寿命と実際の寿命との間にギャップが生じています。

その結果、各国で医療費の増大という社会的課題が顕在化しています。
我々、ヘルスケア事業はこの社会的課題に取り組んでいきます。

ヘルスケア事業(HCB)がフォーカスする3領域

強みを最大限に活かすことができ、グローバルにおいて十分な市場規模がある3領域でパーソナライズ医療の実現による社会的課題の解決を目指す。

循環器疾患



呼吸器疾患



ペインマネジメント



*1 WHO報告より *2 International Respiratory Societies報告より *3 Pain in Japan (日本)、National Health Interview (米国)より
*4 世界銀行並びにOECDのデータを基に推計 *5 厚生省公表データ、欧州呼吸器学会データ、Creative Biotech Inc調査を基に推計
*6 世界鎮痛剤市場調査2013より

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

20

我々は3つの疾患領域に注力しています。
循環器疾患、呼吸器疾患、ペインマネジメントです。

循環器疾患の領域では、高血圧起因で起こる脳卒中や心筋梗塞といった病気が起こり、年間1,750万人もの方が亡くなっており、医療費は120兆円にのぼります。

呼吸器疾患の領域では、特に喘息です。
喘息患者は世界中に4.4億人いると言われていています。
新興国の発展に伴う大気汚染によって、患者数が増えています。

最後にペインマネジメントです。
寿命が延びることで足や腰などに痛みを持ちながら生活している方がたくさんいらっしゃいます。
貼り薬や飲み薬、我々の保有する機器などを合わせて、日米で2.4兆円の市場となっています。

医療費が増大するなか、循環器疾患、呼吸器疾患、ペインマネジメントの3つの領域で、我々はビジネスをしていこうと考えています。

ヘルスケア事業(HCB)の基本戦略

3つのコアカテゴリーの最強化

血圧計

ネブライザ

ペインマネジメント

「脳・心血管疾患の発症ゼロ(ゼロイベント)」
への取り組み

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

21

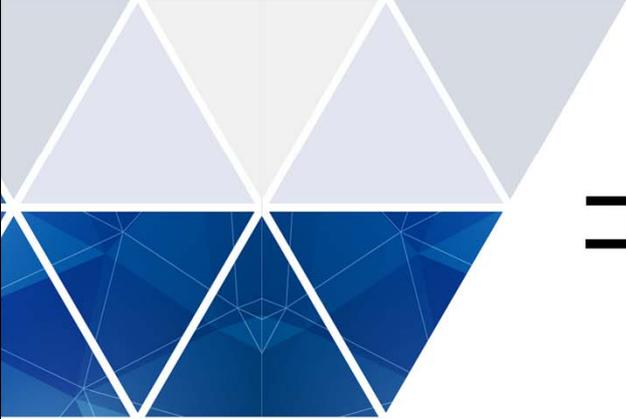
3つの領域で事業を確立していくには、

まず、循環器領域では血圧計、

呼吸器領域では喘息発作が起きた際に吸入し、薬を肺に届けるネブライザ、
ペインマネジメントでは痛みを和らげる低周波治療器、
これら3つの機器に注力し、事業を拡大していきます。

続いて、サービス事業にも注力していきます。

これまでは血圧計の普及で高血圧の患者を減らすことに注力してきましたが、
今後は、血圧を測るだけでなく、データを用いて高血圧に起因する
脳溢血や心筋梗塞を防ぐサービスにトライしていきます。



3つの コアカテゴリーの 最強化

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

22

ここからは、3つのコアカテゴリーの最強化についてご説明いたします。

3つのコアカテゴリーの最強化

3つのコアカテゴリーにおいて、圧倒的シェアNO.1を目指す。

【循環器】
家庭用血圧計



2016年度
実績



2020年度
目標

55%以上

【呼吸器】
ネブライザ



40%以上

【ペインマネジメント】
低周波治療器



45%以上

出所：GFK、ニールセンデータ等、各国の外部調査結果をベースに自社推計
*血圧計・ネブライザは世界シェア、低周波治療器は日本・米国の合算シェア（金額ベース）

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

23

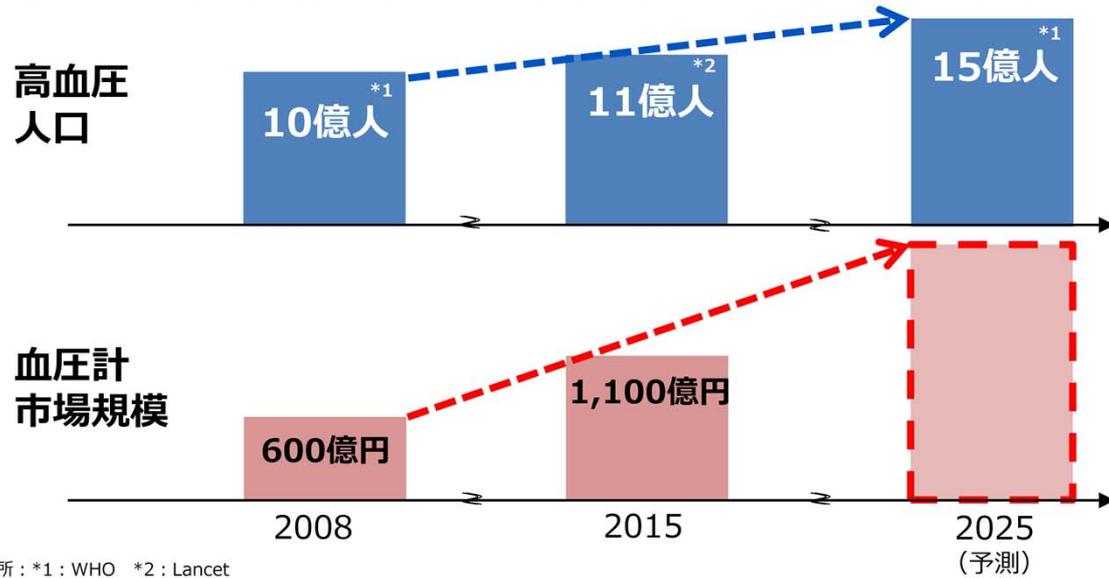
循環器における家庭用血圧計、呼吸器におけるネブライザはそれぞれグローバルで高いシェアを獲得しています。

またペインマネジメントにおける低周波治療器は、主に日本と米国において高いシェアを獲得しています。

今後もさらにシェアを拡大し、より確固たるポジションを築いていきたいと考えています。

拡大が見込まれる血圧計市場

世界の高血圧人口は年々増加。2025年には15億人にまで増えるとも言われている。加えて、健康意識の高まりにより血圧計の市場規模はさらに高い伸び率が見込まれる。



出所：*1：WHO *2：Lancet

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

24

どのようにシェアを拡大していくか、
血圧計を例に挙げてご説明いたします。

新興国の経済発展や先進国での高齢化の進展などにより、
好ましいことではないですが、高血圧人口は増加傾向にあります。
2025年には15億人にのぼると推定されています。

高血圧の方には血圧計が必要です。
このような背景から、まだまだ市場は拡大していくと見ています。

強み

医療機器であるため事業展開には様々な要件が求められる。
血圧計事業を40年以上展開することで獲得した以下の3つが強み。

- ① **許認可取得ノウハウ（=参入障壁）**
- ② **高い精度に基づく医学界からの信頼**
- ③ **チャネル基盤**

市場が広がる一方、新興国で新たに現れる競合にどう打ち勝っていくか？

我々の強みは大きく3つあります。

まず許認可取得ノウハウです。

先ほどご説明した血圧計、ネブライザ、低周波治療器は単なる健康機器ではなく、医療機器です。

そのため、各国で許認可を取得する必要があります。

次に、医学会からの信頼です。

特に血圧計においては血圧の値に基づき医師が診断、治療の方針を決めていきますので、精度への医学会からの高い信頼が欠かせません。

最後にチャネル基盤です。

昭和36年から続く長年にわたってビジネスを続けてきた結果、いまでは世界中にチャネル網を張り巡らせています。

強み① 許認可取得ノウハウ（参入障壁）

グローバル 117カ国に販売。うち 90カ国で許認可取得が必要。
各国から要求される安全性と有効性を満たし、血圧計を世界中で販売。



Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

26

許認可取得について、もう少し詳しくご説明いたします。

医療機器は、日本でいえば薬事法、米国ではFDAといった許認可を各国で取得する必要があります。

我々は117カ国で血圧計を販売していますが、そのうち90カ国では許認可の取得が必要です。

90カ国に上る多くの国で許認可を取得しているノウハウこそが我々の強みです。

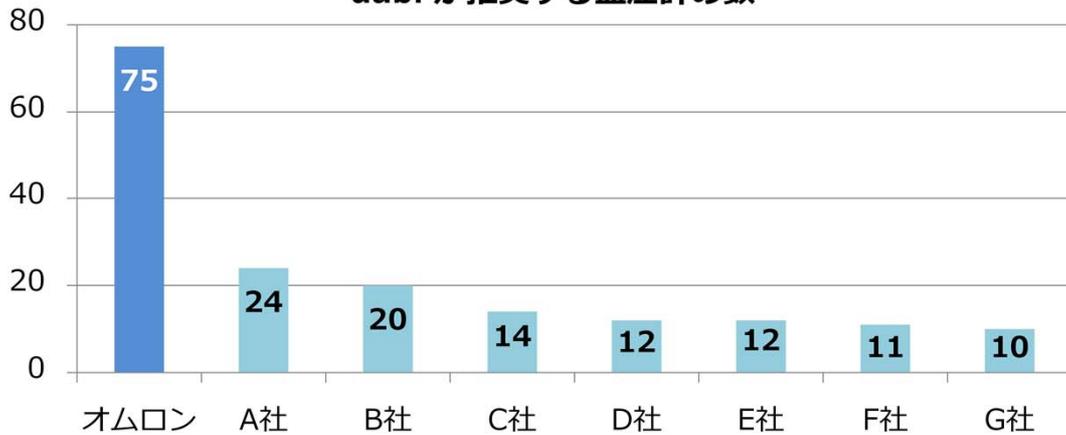
また、今後、まだ規制の整っていない新興国においても、許認可制度の整備が進んでいきます。

このような中で許認可のノウハウを持っているということが、他社にはなかなか追いつけないポイントになります。

強み② 高い精度に基づく医学界からの信頼

オムロンの血圧計は多くの論文で高い精度が認められており、医師が血圧計を選択する際に参考にする第三者機関 dabl から最も多くの推奨を獲得している。

dabl が推奨する血圧計の数



検索条件：dabl Educational Trust より、Upper Arm Devices & Wrist Devices for Self-measurement of Blood Pressure
検索日：2016年3月 その他：5件以上登録のあるメーカーのみ表示
自社調べ

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

27

次に、医学会からの信頼です。

このスライドは、dablという医師で構成され、臨床上で使える信頼性のある血圧計を評価する団体が推奨する血圧計の数を表しています。

ご覧のとおり、我々の血圧計は最多の75機種が選ばれています。

グローバルで信頼できる精度を確立していることがお分かりいただけると思います。

強み② 高い精度に基づく医学界からの信頼

オムロンの血圧計は、WHOの家庭血圧基準決定の基となった大迫研究をはじめ、世界中の大規模臨床研究で使われている。



Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

28

このような評価をいただいていることで、オムロンの血圧計は世界中の大規模臨床研究で用いられています。

起点となっているのは、東北の大迫（おおはさま）で行われた研究です。この研究で我々の血圧計が使用され、その研究結果をもとに、WHOの血圧計の基準が制定されています。

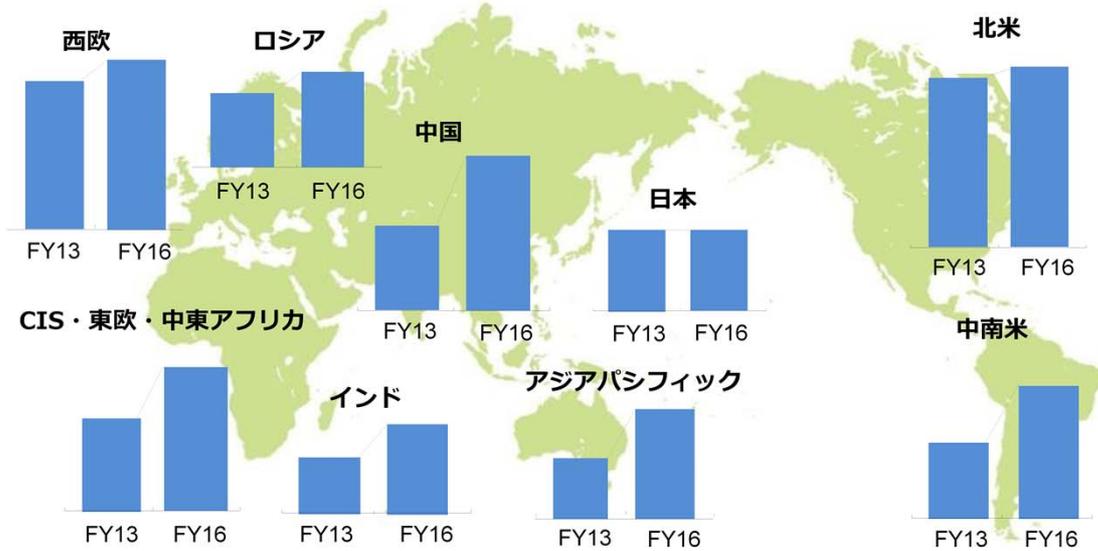
世界中の名だたる研究で我々の血圧計が使用され、精度、数値がそのまま医学会の基準値になっています。

これは一朝一夕でできるものではありません。

この強みを武器にシェアを伸ばしていきます。

強み③ チャンネル基盤（薬局・薬店における取扱い店舗の拡大）

新興国エリアを中心に取り扱い店舗をさらに拡大。
 (FY13 36万店 → FY16 46万店)



Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

29

最後にチャンネル基盤です。

グローバル117カ国で我々の機器の取り扱い店舗数は46万店にのびます。

世界中の人たちが、我々の機器をお求めやすいように販売網を拡大しています。

強み③ チャンネル基盤（拡大するオンラインにも対応）

大手ECサイト アマゾンの血圧計人気商品ランキングで上位を占有。

(2018年1月19日 現在)

Amazon.co.jp

上腕式血圧計の売れ筋ランキング

Amazon.co.jpの売れ筋ランキング。ランキングは1時間ごとに更新されます。

1. オムロン 電子血圧計 上腕式 腕巻きつけタイプ HEM-7123 ★★★★★ 157	6. オムロン 上腕式血圧計 HEM-8713 ★★★★★ 40
2. オムロン デジタル自動血圧計 HEM-7111 ★★★★★ 182	7. オムロン 電子血圧計 上腕式 OMRON connect対応 HEM-7282T ★★★★★ 55
3. オムロン 電子血圧計 上腕式 腕巻きつけタイプ HEM-7123 ★★★★★ 49	8. 他社商品
4. オムロン デジタル自動血圧計 HEM-1021 ★★★★★ 60	9. 他社商品
5. オムロン 電子血圧計 上腕式 腕巻きつけタイプ HEM-7200 ★★★★★ 322	10. オムロン 上腕式血圧計 HEM-7131 ★★★★★ 151

Amazon.com

1. Best Sellers in Blood Pressure Omron BPL-CHL5 Series Upper Arm ★★★★★ 4,447	2. 他社商品	3. Omron 15 Series Wireless Bluetooth ★★★★★ 1,296
4. 付属品	5. 他社商品	6. Omron 3 Series Upper Arm Blood Pressure ★★★★★ 1,900
7. Omron 10 Series Upper Arm Blood ★★★★★ 1,666	8. Omron 7 Series Wrist Blood Pressure ★★★★★ 10,362	9. 他社商品
10. 他社商品		

売れ筋トップ10に8商品ランクイン

売れ筋トップ10に5商品ランクイン

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

30

昨今、拡大しているオンライン市場にも対応しています。

例えば、日米のアマゾンの血圧計人気商品ランキングでは、多くの機種が上位にランクインしています。

許認可取得ノウハウと医学会からの信頼、この2つの強みを活かしながら、変化するチャンネルにも対応し、確実にお客様から選ばれる確固たるポジションを構築してまいります。



脳・心血管疾患の 発症ゼロ (ゼロイベント)

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

31

続きまして、ゼロイベントです。

循環器疾患領域における事業ビジョン



オムロンヘルスケアは『**ゼロイベント**』を目指します。
『**ゼロイベント**』とは、**脳卒中**や**心筋梗塞**など、
高血圧が原因で起こる、**生死につながり寝たきり**などの
原因となる疾患（イベント）を、ゼロにすること。

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

32

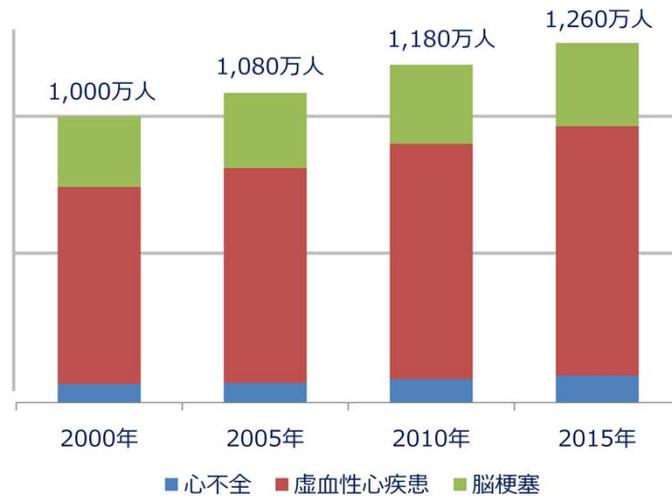
我々はこれまで、家庭で血圧を測るという文化を築き上げ、高血圧の治療に貢献してきました。

これからはさらに新しい目標を掲げています。
血圧計を売るだけでなく、最終的には脳卒中や心筋梗塞を起こさないために、サービスの提供も含め「ゼロイベント」を目指し、新しい事業を考えています。

脳・心血管疾患の死亡者数の推移

脳・心血管疾患による死亡者数は増加し続けている。

脳・心血管イベントによる死者数(グローバル)*1



*1:WHO Global Health Estimates2015

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

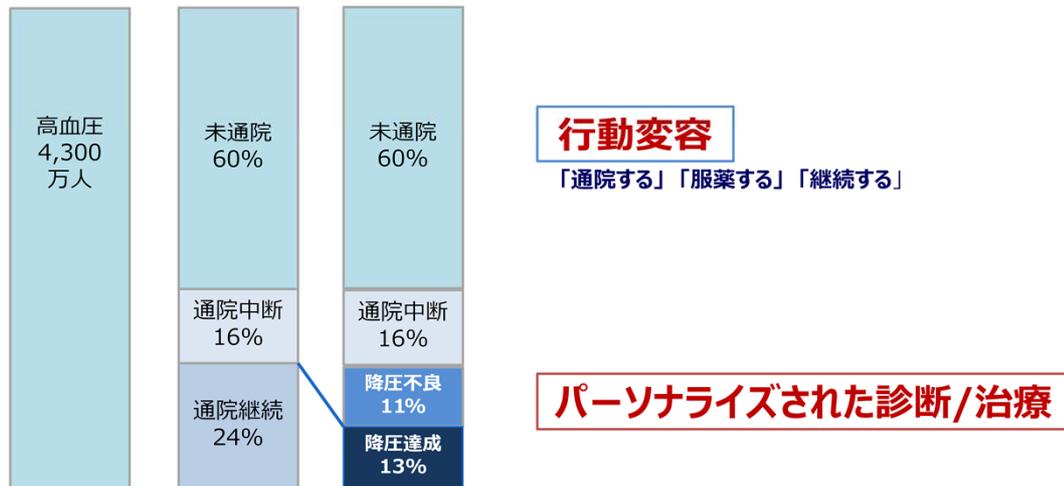
33

先程もお伝えしたとおり、高血圧人口の増加に伴い、血圧計の普及が進んでいます。

しかし、残念ながら脳梗塞や心筋梗塞で亡くなる方の数は年々増加しています。

高血圧治療における課題（日本の事例）

脳・心血管疾患の主な原因である高血圧症患者の降圧達成率は、13%に留まる。
 今後、降圧達成率を向上させるには、
 (1) 患者の行動変容支援、(2) パーソナライズされた診断/治療が必要。



出所：NPO高血圧改善フォーラム

* 服薬患者の半数しか降圧できていない

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

34

こちらは日本の事例です。

日本には高血圧の方が4,300万人いると言われてしています。
 しかし、実際に自分に合った薬を飲んで血圧を
 コントロールできている方はそのうちわずか13%だけです。

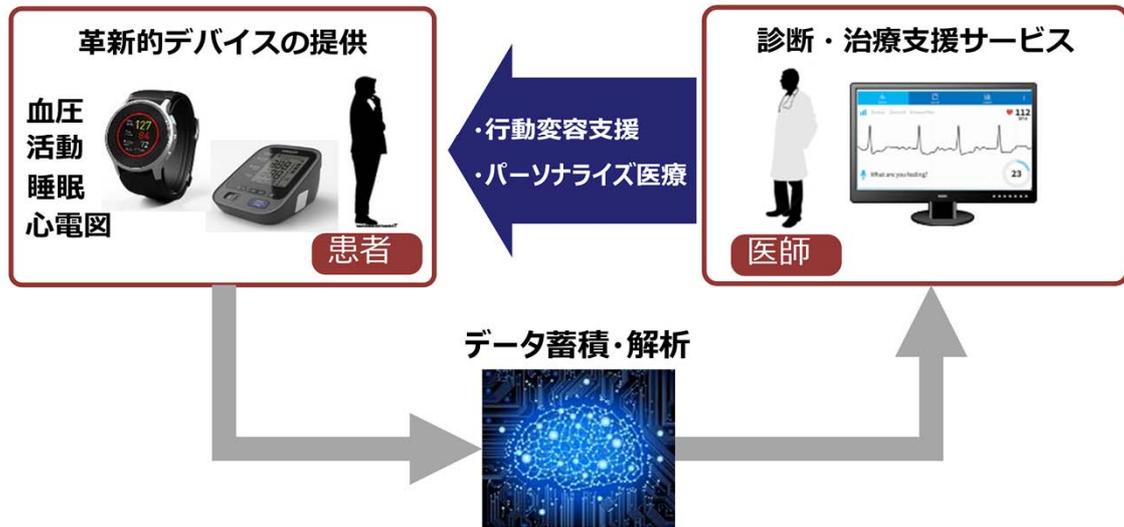
この現状を改善しない限り、ゼロイベントを実現することは
 実現できません。

我々は、血圧が高いと分かった人が、通院し、血圧計測、服薬を
 継続するという行動変容につながるサービス事業を展開していきます。

また、高血圧は、高血圧症であって高血圧病ではありません。
 様々な要因があって血圧が高いという症状が現れている。
 つまり、高血圧治療には、原因を特定し、その人にあった薬を処方する、
 パーソナライズされた診断、治療が必要です。

ヘルスケア事業(HCB)が目指す高血圧治療の革新

革新的なデバイスで血圧計測のハードルを下げるとともに様々なバイタルデータの取得を可能にする。さらに、取得したバイタルデータを蓄積、解析することで、高血圧治療を革新し得る診断・治療サービスを提供し、ゼロイベントを実現する。



Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

35

我々はウェアラブルデバイスなどの機器を用いて、運動中や睡眠中の血圧や心電図など新たな生体情報を加味して分析し、個々人に見合った治療方針をだすといったサービスを考えています。

また薬を飲んで血圧が下がった方に対して、運動量を増やすべきだとか塩分を減らすべきといった、最適な行動変容を、データの分析により提供していきたいと考えています。

高血圧治療を次のステージへ導く第一歩（AliveCor社との協創）

新デバイスにより取得できる生体・行動情報データを拡大し、心疾患の診断と治療の高度化により、ゼロイベントを実現させる。

AliveCor社の強み

- ・モバイル心電計(FDA認可)
心房細動の確定診断が可能



- ・心疾患専門医および患者向サービスプラットフォーム



オムロンの強み

- ・デバイス開発力

本体・カフ体型
チューブレス血圧計
(17年3月発売)



新デバイス
(例)

ウェアラブル血圧計
(米国で18年中発売
に向け開発中)



- ・アルゴリズム開発力
 - 診断アルゴリズム
 - 最適投薬アルゴリズム

協創する内容

- ・心電+血圧計の開発
(FDA認可予定)

新デバイス
(例)



- ・心電+血圧データを用いたサービスプラットフォーム開発
(FDA認可予定)

新サービス



Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

36

より強固なサービスの実現に向けて、アライブコア社との協創を始めています。

アライブコア社は家庭で心電を測り、それを分析するサービスを提供し、イベントをゼロにすることを目指しています。

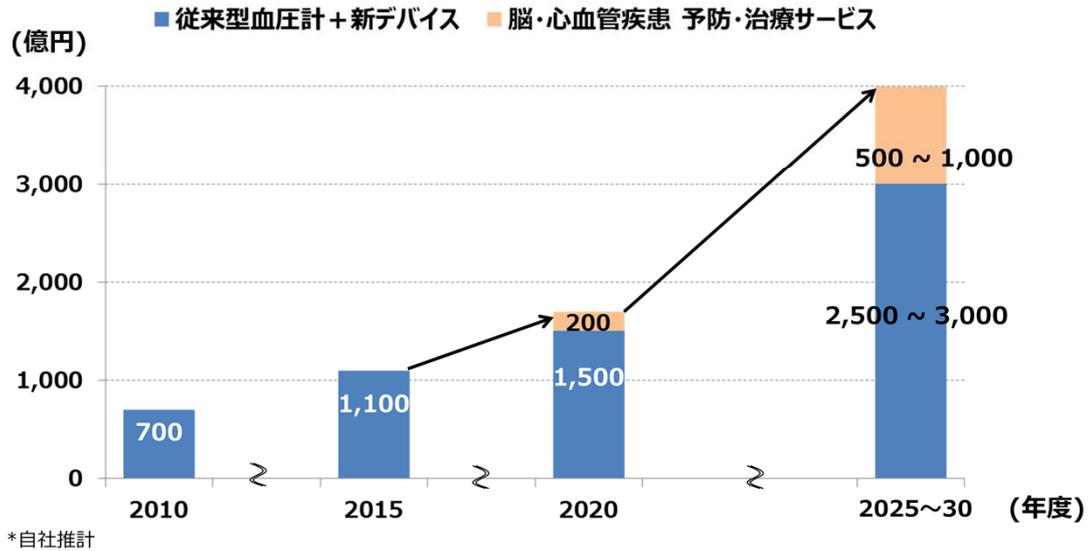
志は我々と一緒です。

家庭で測った心電データを数多く保有している会社はおそらくアライブコア社だけです。

今後は我々の血圧計に心電計の機能も加え、血圧値に心電情報を加え、よりよい治療方針や確実な治療法を提供し、イベントをゼロに近づけていきたいと考えています。

血圧関連事業のポテンシャルマーケット

高血圧患者の増加、パーソナライズ医療に向けた測定機器の高機能化、サービス市場の立ち上がりにより、血圧関連事業のポテンシャルマーケットは拡大。



Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

37

今後も血圧計の売上は増えていきます。

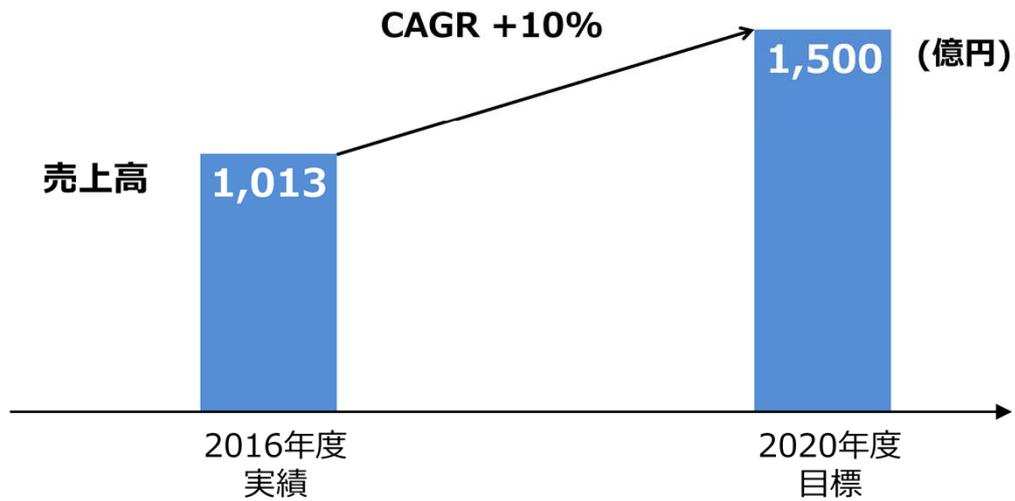
また家庭での心電計測が一般化すれば、心電計の市場規模の拡大も見込めます。

病院から家庭へ、そして1人1台へ、
まだまだ血圧計の市場は拡大していきます。

さらにデータを使い短時間でその人に合った薬や治療方針を決めることのできるサービスを提供し、
サービス事業も拡大していきたいと考えています。

ヘルスケア事業(HCB) 2020年度目標

3つのコアカテゴリー最強化とともに、ゼロイベントの取り組みを加速し、2020年度まで年間伸び率 10%の成長を実現する。



Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

38

今後も、3つのコアカテゴリーをさらに強固にしていきます。その中で、新たなサービス事業にもチャレンジし、2020年度の売上高目標1,500億円の達成を目指します。

私の説明は以上です。

【トピックス】 統合レポート2017

オムロンの統合レポート2017が多方面から評価を受け、様々な賞を受賞。

WICIジャパン
統合報告優良企業表彰

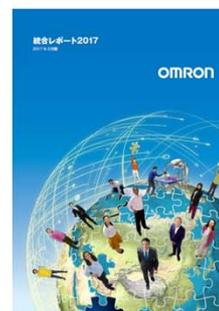
大賞

日経アニュアルリポート
アワード

グランプリ

GPIFの運用機関が選ぶ
優れた統合報告書

「特に優れた統合報告書」
「特に改善度の高い統合報告書」
の両方に選出



<http://www.omron.co.jp/ir/irlib/annual.html>

Copyright: 2018 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

39

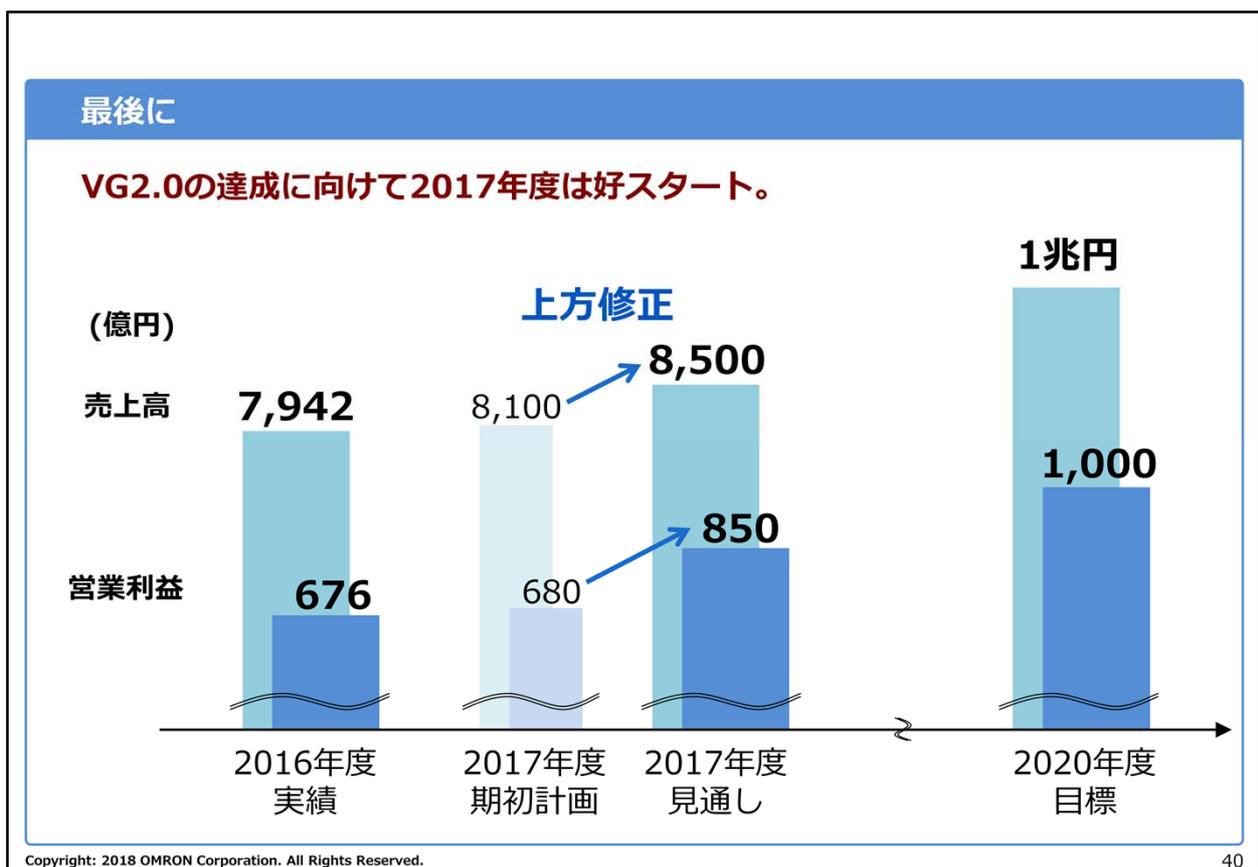
(取締役 執行役員専務 CFO 兼 グローバル戦略本部長 日戸 興史によるプレゼンテーション)

それでは最後に、改めて私からトピックスを紹介させていただきます。

オムロンの統合レポート2017が多方面から評価を受け、
様々な賞を受賞しました。

我々の事業内容やESGの取り組みとともに、
持続的に企業価値を向上するシナリオが評価されたことを意味しており、
大変誇らしいことであると認識しています。

今後も事業を通じて社会の持続的発展に貢献し、
統合レポートでその内容を皆さまにお伝えしていきます。



最後にもう一言、お伝え致します。

新中期経営計画VG2.0で目指す売上高1兆円、営業利益1,000億円の達成に向けて、2017年度をスタートしました。

10月には2017年度の期初計画を大幅に上方修正しました。

その後も事業は好調に推移しており、この見通しは達成する見込みです。VG2.0が始動してから9カ月が経ち、スタートダッシュに手応えを感じています。

引き続き、稼ぐ力の向上で獲得した原資を積極的に投資するサイクルを構築し、将来の成長構造作りを加速すると同時に収益性を向上させていきます。

それにより、2020年度の中期目標の達成を確かなものにしていきます。

引き続き、株主・投資家の皆様のご支援を賜りますよう、今後とも宜しくお願い致します。

私の説明は以上です。

ご清聴ありがとうございました。

OMRON



參考資料

4Q 為替前提

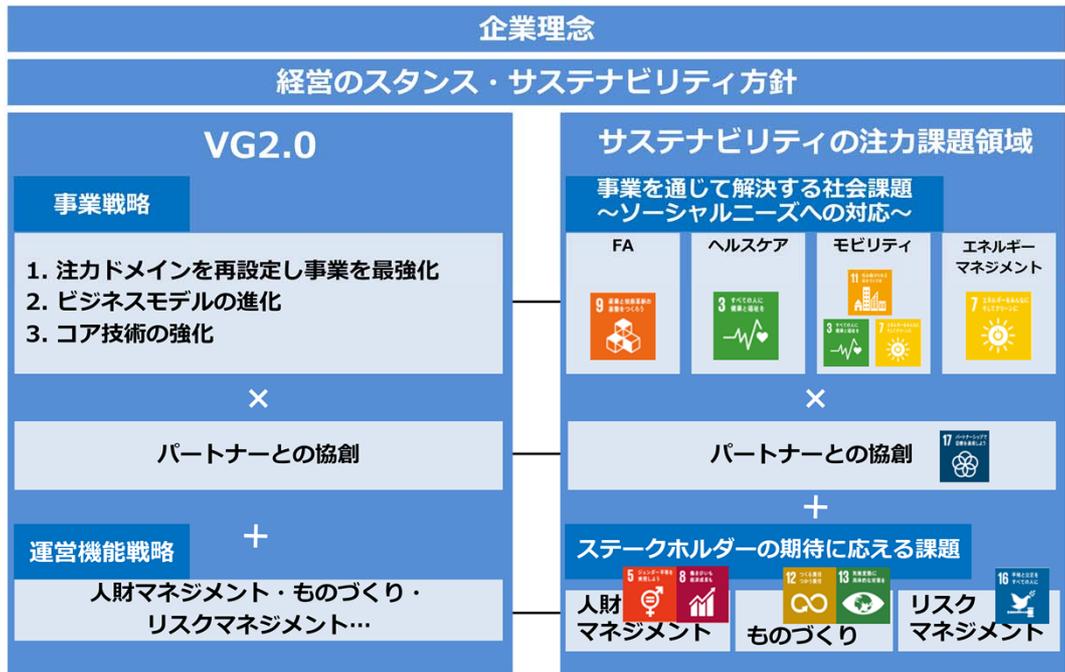
	為替前提	1円変動による影響額（通期）	
		売上高	営業利益
USD	110円	約35億円	約5億円
EUR	128円	約9億円	約5億円

※ 新興国通貨等がUSD、EURに想定通り連動しなかった場合、感応度に影響を与えます。

6つの経営指標

	2016年度 実績	2017年度 見通し	2020年度 目標
売上高	7,942億円	8,500億円	1兆円
売上総利益率	39.3%	41.6%	41%以上
営業利益	676億円	850億円	1,000億円
ROIC	10.3%	12%前後	10%以上
ROE	10.1%	12%前後	10%以上
EPS	215.1円	277.0円	300円以上
USD / EUR	108.9円 / 119.4円	111.3円 / 127.9円	110円 / 118円

「VG2.0」とサステナビリティ戦略の関係



ヘルスケア サステナビリティ目標 (VG2.0スタート時に設定)

家庭での血圧測定さらなる拡大と脳・心血管疾患の発症ゼロ(ゼロイベント)、喘息重症化ゼロを目指すことで健康寿命の延長や医療費の削減に貢献し、世界中の一人ひとりの健康ですこやかな生活を実現。

ヘルスケアの取り組み



社会的課題	2020年度目標・KPI
高血圧由来の 脳・心血管疾患の発症増加	血圧計販売台数：2,500万台/年
全世界で増加する呼吸器疾患	ネブライザ+喘鳴測定器販売台数：765万台/年

ヘルスケア以外のサステナビリティ目標はこちら

VG2.0との関連 <http://www.omron.co.jp/vg2020/>

目標一覧 http://www.omron.co.jp/sustainability/omron_csr/tasks_goals/

主要ESGインデックスへの組み入れ (2018年1月現在)

サステナビリティ投資の主要な指標の全てに選定。
今後も事業を通じた社会の持続的発展に貢献していく。

<オムロンが選定されているESGインデックス>

- ✓ **DJSI – World**
- ✓ FTSE4Good Index Series
- ✓ MSCI ESG Leaders Indexes
- ✓ MSCI SRI Indexes
- ✓ STOXX Global ESG Leaders indices
- ✓ CDP
- ✓ MS-SRI
- ✓ **FTSE Blossom Japan Index**
- ✓ **MSCI ジャパンESG
セレクト・リーダーズ指数**
- ✓ **MSCI 日本株 女性活躍指数**

GPIF
選定

MEMBER OF
**Dow Jones
Sustainability Indices**
In Collaboration with RobecoSAM  FTSE4Good 

MSCI  2017 Constituent
MSCI ESG
Leaders Indexes

MSCI  2017 Constituent
MSCI SRI Indexes

Member 2016/2017
STOXX
ESG LEADERS INDICES

CDP
DRIVING SUSTAINABLE ECONOMIES

MS-SRI | モーニングスター社会的責任投資株優指数
Morningstar Socially Responsible Investment Index

 **MSCI**  2017 Constituent
MSCI ジャパンESG
セレクト・リーダーズ指数

 **FTSE Blossom
Japan**  2017 Constituent
MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

ROIC逆ツリー展開



ROIC計算式

<連結貸借対照表>

科目	年 月末
資産の部	
流動資産	
・・・	
有形固定資産	
・・・	
投資その他の資産	
・・・	
負債の部	
流動負債	
短期債務	
・・・	
・・・	
純資産の部	
株主資本	
・・・	
・・・	
・・・	
純資産の部合計	
負債及び純資産合計	

$$\text{ROIC} = \frac{\text{当社株主に帰属する当期純利益}}{\text{投下資本}}$$

$$\text{投下資本} = \text{純資産} + \text{有利子負債}$$

※投下資本は、前年度末実績および当年度の各四半期毎の実績または見通しを平均して算出。

2017～2020年度における想定資本コスト：6%

<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。
3. 当資料は「平成30年3月期 第3四半期決算短信」に準拠し作成しています。
差額、比率については百万円単位で計算し、四捨五入しています。

<IRに関するお問い合わせ>

オムロン株式会社

グローバルIR・コーポレートコミュニケーション本部
経営IR部

電話 : 03-6718-3421
E-mail : omron_ir@omron.co.jp
HP : www.omron.co.jp